

2 水道事業の運営方針・目標

福岡市水道長期ビジョン 2028

福岡市では、水道事業運営の基本計画である「福岡市水道長期ビジョン2028」(平成29年度～令和10年度)を策定しており、福岡市水道事業が目指すべき方向性を定めています。

この目指すべき方向性の実現に向け、取り組むべき4つの施策目標を設定しており、将来にわたり、みなさまに安心して水道水をお使いいただけるよう、施策目標の達成に向けた取組みを進めています。

また、SDGs推進のため、水道局も福岡市総合計画の施策との関連を意識して、事業を進め、目標の達成に貢献していきます。



基本理念

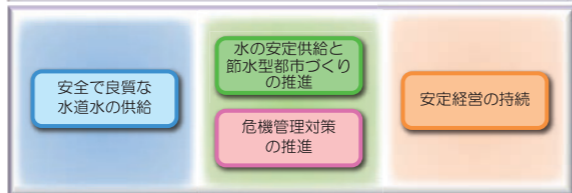
みなさまから信頼される水道 ～安全で良質な水の安定供給～

福岡市水道事業が目指すべき方向性

- いつでも安全でおいしい水が飲める水道
- どんなときでも水を安定供給できる水道
- これからも質の高いサービスを継続する水道

目指すべき方向性を実現するための施策目標を設定

4つの施策目標



水道DXの推進

人口減少や少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少、物価高騰や人件費の上昇に伴う事業コストの増大、施設の老朽化などの課題に対応し、限られた資源を最大限に活かしていくためには、ICT等のデジタル技術を活用したDXを進めていく必要があります。

水道事業においても、事業運営のあらゆる分野において、ICT等を積極的に活用することにより、業務の効率性と生産性を高め、迅速で利便性の高いサービスの実現を目指し、「水道DX」を推進します。

水道DXの取組み

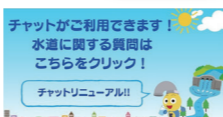
水道局アプリによるサービス向上

水道局アプリでは、水道の使用開始から口座振替等の申込み、料金のpay払い、料金や使用量の確認まで、スマートフォンで24時間365日どこからでも手続き等が可能です。



AIチャットボットの運用

お客さまのお問い合わせに的確かつ迅速に対応するため、水道局ホームページにおいて、AIを搭載したチャットボット(案内サービス)を運用。



※その他、人工衛星画像、AI・IoTセンサを活用した漏水調査なども行っています。P8、P18

安全でおいしい水道水プロジェクト

- 目的 ひとりでも多くのお客さまに、より満足して水道水をお使いいただくため、目標を明確に定めた上で、水源からじゃ口までの過程において様々な取組みを総合的に展開し、「安全でおいしい水道水」を目指します。

安全でおいしい水道水プロジェクトにおける取組み



●行動計画

安全でおいしい水道水をつくります	安全でおいしい水道水をそのままじゃ口まで届けます	水道水のよさを積極的にPRします
主な取組み ○水源かん養林の整備 (P.16～18) ○水道原水の監視 ○水質検査の充実 (P.10～12)	主な取組み ○配水管の整備 (P.6) ○小規模貯水槽の適正管理の啓発 (P.14) ○直結式給水の普及促進 (P.15) ○福岡市独自の水質目標による水質管理 (P.11～12)	主な取組み ○積極的な情報提供 (P.8)
水源かん養林整備(間伐) ○福岡市独自の水質目標による水質管理	水道管の取替え	こども水道教室

3 水の安定供給

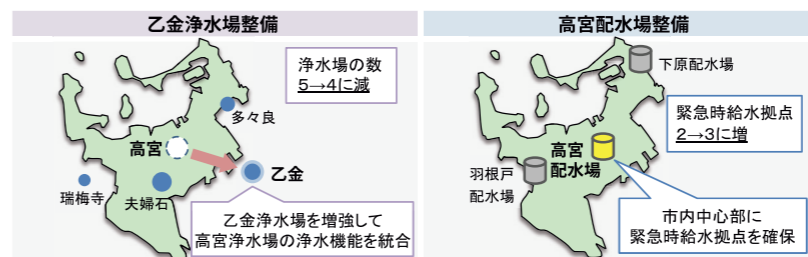


地理的に水資源に恵まれていない福岡市。近年の不安定な降雨状況や人口増加の中で、安定した給水に努めています。

浄水場の再編

福岡市で最も古い高宮浄水場の老朽化を契機に、高宮浄水場の浄水機能を乙金浄水場に統合するとともに、高宮浄水場を新たに緊急時給水拠点機能(P.19参照)を持つ配水場として再整備するなど、浄水・配水施設の再編を進めていきます。

浄水場の再編における効果的・効率的な整備の取組みとして、配水調整システム(P.7参照)を活用することで、将来の水需要に対応しながらも、浄水場数の削減や全体施設規模を適正化することとしています。



高宮浄水場(昭和35年建設)

配水管の整備

配水管は、浄水場でつくられた安全で良質な水道水を届ける重要な施設です。このため、老朽化の状況などに応じて計画的に地震の揺れに強い耐震管を使用して更新を行っています。

配水管の実際に使用できる期間(実質的な耐用年数)は、埋設土壌や地下水の状況、さらには腐食対策のためのポリエチレンスリーブ(※)の装着の有無によって大きく異なります。

このため、配水管の埋設環境と老朽化の進行度合いの関連などについて調査・分析した結果をふまえ、埋立地などの腐食性の高い土壌に埋設している、ポリエチレンスリーブを装着していない配水管を優先的に更新しています。

★令和6年度は、新設や古くなった管の取替えなど約45kmの整備を行い、令和6年度末の配水管の総延長は4,079kmになりました。

※ポリエチレンスリーブ:管を包むポリエチレン製の袋状の装着物で、管と土壌との接触を断つことにより管の防食を行うもの。福岡市では昭和54年度から装着しています。

ポリエチレンスリーブ装着の効果

ポリエチレンスリーブ非装着管の腐食状況(31年経過後)

ポリエチレンスリーブ装着管の腐食状況(36年経過後)



配水管の布設

★有効率の推移

有効率とは、浄水場から送られた水量に対して、実際に使用された水量の割合を示すものです。

福岡市の有効率は、漏水防止や配水管の整備工事、適正な水圧に調整して配水する配水調整などの効果によって年々向上し、令和6年度は97.7%と、全国でも高い水準を維持しています。

